



営農講座 (3) 四月の農作業

芋苗の育て方

1種芋一個当りの面積は、一尺平方の広さを与え、苗に充分日光を当て、芋を太くして節間を近くなるように且つ節を太くするように育てる事が秋の収量を支配するので先ず共済組にするために、密植に成り居る場合は今直ぐに、間引を致しなす。

2発芽したら一個の連芋より三乃至四本のごとく、芽選する事も許容であります。

3本畑へ植付ける苗の長さは、七乃至八寸として植付けの遅れるに、したがって埋い苗を数多く植えるようにしかつ土地の悪い砂地、ヤセ地は特にこの節である。

4当特伊方浦は宇和島藩にぞくし、人口約二千、村高は歴長年間の四百九拾石から、元禄年間約千五百拾石に増え、さて領主伊達公の参勤交代は海路三時舟を隔つていたがなにしての多い海の陸所です。後にはこれを改めて、伊方藩成城になりました。領主一行が参勤交代で江戸に出るには、宇和島で乗船、一行三百二十人(武士九五、医者八

細い苗を多く植えるようにして、一基より一個或は三個の芋を完全に着ける可く、計画的な甘藷栽培こそ重要な点であります。

4苗は二回乃至三回に採苗し苗を採苗毎に、うすい下肥を施用する事が大切である。

5田中に4、5FにDDTを噴霧を加用して一度着る事も育苗の作業であります。

馬鈴薯の管理

馬鈴薯の花アザが出来次第に硫安又は硫酸の施用をします。と芋の肥大生育を促進して収量を増やしたいが、又この時期にダイセンの罹布を一度して置く事も許容です。

馬鈴薯の花アザが出来次第に硫安又は硫酸の施用をします。と芋の肥大生育を促進して収量を増やしたいが、又この時期にダイセンの罹布を一度して置く事も許容です。

「御参勤、御下向御地面御参行之際庄屋町、御休息の間御酒可被下候……」

これは庄屋町家由緒書の中の一節である。

当時伊方浦は宇和島藩にぞくし、人口約二千、村高は歴長年間の四百九拾石から、元禄年間約千五百拾石に増え、さて領主伊達公の参勤交代は海路三時舟を隔つていたがなにしての多い海の陸所です。後にはこれを改めて、伊方藩成城になりました。領主一行が参勤交代で江戸に出るには、宇和島で乗船、一行三百二十人(武士九五、医者八

百二十人(武士九五、医者八

●雑柑類について
夏柑の収穫がおわり次第に、赤柑の残量(赤柑の四割)を直ぐ施用して、間引特定併せ別枝の、たれた枝の切戻し特定を行うことが大切である。

●防風垣の未完成地の対策
風の出来おらぬは今月中旬に杉垣苗より一、二尺の長さ、アサレノミを播種して、発芽後二、三回草葉又は硫安の施用いたし置きますと、台風防止として役立ちますと聞

時に家畜の飼料となり、又果間組織となり。果園の数字に利用が出来ますので、是非実行に移されたし。反当種子量は二升です。申込は農協へ申込まれるとよいです。農業改良普及員 篠川 技 師

町の日誌より

二月四日 御用始め
二月十三日 厚生委員会開催本年度公担任宅人礼を実施した
二月十五日 成人式挙行(伊方小学校)
二月二十日 課長会議三十三年度予算につき協議した
二月二十五日 教育委員会及校長会開催
二月二十七日 文藝委員会 豊小、九町小池改築につき協議
二月二十八日 町月例監査実施

町の日誌より

二月四日 農事委員会開催
二月十三日 建設委員会開催
二月十四日 農事委員会開催
二月十九日 農事委員会開催
二月二十三日 郡婦人連合会評議会が伊方小学校に於て開催された
二月二十五日 国保監査(愛媛行政監察局) 教育委員会開催
二月二十七日 矢野監査実施
運輸省中間検査実施される
財政再建監査実施 (県地方課)

今年から「はくち」わたしも一年生

めぐり来る春と共に今年もまたハンドセをふくらませて登校する時期が間近になりました。伊方町教育委員会の調べにより、今年各小学校の新入生児童数は次の通りとなっています。

伊方小学校	男 六四名	女 六二名	計 一二六名
水ヶ浦小学校	男 二一名	女 一五名	計 三六名
育英小学校	男 七名	女 一一名	計 一八名
豊之浦小学校	男 一三名	女 二七名	計 四〇名
九町小学校	男 三一名	女 三〇名	計 六一名
二見小学校	男 三一名	女 三〇名	計 六一名

伊方中学校	男 七五名	女 八五名	計 一六〇名
町見中学校	男 五二名	女 四二名	計 九四名

明るい町と 社会福祉協議会

福な家庭明るい町を誰一人と福な家庭、住みよい町を創り、世界一明るい伊方町を我々住民も備からねばなりません。狭い土地、限られた収入で他人の事どころか自分の生活で一杯だと言う方もあります。狭い土地、限られた収入で他人の事どころか自分の生活で一杯だと言う方もあります。狭い土地、限られた収入で他人の事どころか自分の生活で一杯だと言う方もあります。

明るい町と 社会福祉協議会

福な家庭明るい町を誰一人と福な家庭、住みよい町を創り、世界一明るい伊方町を我々住民も備からねばなりません。狭い土地、限られた収入で他人の事どころか自分の生活で一杯だと言う方もあります。狭い土地、限られた収入で他人の事どころか自分の生活で一杯だと言う方もあります。狭い土地、限られた収入で他人の事どころか自分の生活で一杯だと言う方もあります。

明るい町と 社会福祉協議会

福な家庭明るい町を誰一人と福な家庭、住みよい町を創り、世界一明るい伊方町を我々住民も備からねばなりません。狭い土地、限られた収入で他人の事どころか自分の生活で一杯だと言う方もあります。狭い土地、限られた収入で他人の事どころか自分の生活で一杯だと言う方もあります。狭い土地、限られた収入で他人の事どころか自分の生活で一杯だと言う方もあります。

明るい町と 社会福祉協議会

福な家庭明るい町を誰一人と福な家庭、住みよい町を創り、世界一明るい伊方町を我々住民も備からねばなりません。狭い土地、限られた収入で他人の事どころか自分の生活で一杯だと言う方もあります。狭い土地、限られた収入で他人の事どころか自分の生活で一杯だと言う方もあります。狭い土地、限られた収入で他人の事どころか自分の生活で一杯だと言う方もあります。

明るい町と 社会福祉協議会

福な家庭明るい町を誰一人と福な家庭、住みよい町を創り、世界一明るい伊方町を我々住民も備からねばなりません。狭い土地、限られた収入で他人の事どころか自分の生活で一杯だと言う方もあります。狭い土地、限られた収入で他人の事どころか自分の生活で一杯だと言う方もあります。狭い土地、限られた収入で他人の事どころか自分の生活で一杯だと言う方もあります。

明るい町と 社会福祉協議会

福な家庭明るい町を誰一人と福な家庭、住みよい町を創り、世界一明るい伊方町を我々住民も備からねばなりません。狭い土地、限られた収入で他人の事どころか自分の生活で一杯だと言う方もあります。狭い土地、限られた収入で他人の事どころか自分の生活で一杯だと言う方もあります。狭い土地、限られた収入で他人の事どころか自分の生活で一杯だと言う方もあります。

明るい町と 社会福祉協議会

福な家庭明るい町を誰一人と福な家庭、住みよい町を創り、世界一明るい伊方町を我々住民も備からねばなりません。狭い土地、限られた収入で他人の事どころか自分の生活で一杯だと言う方もあります。狭い土地、限られた収入で他人の事どころか自分の生活で一杯だと言う方もあります。狭い土地、限られた収入で他人の事どころか自分の生活で一杯だと言う方もあります。

伊方むかしむかし (4) 参勤交代の巻 宇都宮 正義

「御参勤、御下向御地面御参行之際庄屋町、御休息の間御酒可被下候……」

これは庄屋町家由緒書の中の一節である。

当時伊方浦は宇和島藩にぞくし、人口約二千、村高は歴長年間の四百九拾石から、元禄年間約千五百拾石に増え、さて領主伊達公の参勤交代は海路三時舟を隔つていたがなにしての多い海の陸所です。後にはこれを改めて、伊方藩成城になりました。領主一行が参勤交代で江戸に出るには、宇和島で乗船、一行三百二十人(武士九五、医者八

伊方むかしむかし (4) 参勤交代の巻 宇都宮 正義

「御参勤、御下向御地面御参行之際庄屋町、御休息の間御酒可被下候……」

これは庄屋町家由緒書の中の一節である。

当時伊方浦は宇和島藩にぞくし、人口約二千、村高は歴長年間の四百九拾石から、元禄年間約千五百拾石に増え、さて領主伊達公の参勤交代は海路三時舟を隔つていたがなにしての多い海の陸所です。後にはこれを改めて、伊方藩成城になりました。領主一行が参勤交代で江戸に出るには、宇和島で乗船、一行三百二十人(武士九五、医者八

伊方むかしむかし (4) 参勤交代の巻 宇都宮 正義

「御参勤、御下向御地面御参行之際庄屋町、御休息の間御酒可被下候……」

これは庄屋町家由緒書の中の一節である。

当時伊方浦は宇和島藩にぞくし、人口約二千、村高は歴長年間の四百九拾石から、元禄年間約千五百拾石に増え、さて領主伊達公の参勤交代は海路三時舟を隔つていたがなにしての多い海の陸所です。後にはこれを改めて、伊方藩成城になりました。領主一行が参勤交代で江戸に出るには、宇和島で乗船、一行三百二十人(武士九五、医者八

伊方むかしむかし (4) 参勤交代の巻 宇都宮 正義

「御参勤、御下向御地面御参行之際庄屋町、御休息の間御酒可被下候……」

これは庄屋町家由緒書の中の一節である。

当時伊方浦は宇和島藩にぞくし、人口約二千、村高は歴長年間の四百九拾石から、元禄年間約千五百拾石に増え、さて領主伊達公の参勤交代は海路三時舟を隔つていたがなにしての多い海の陸所です。後にはこれを改めて、伊方藩成城になりました。領主一行が参勤交代で江戸に出るには、宇和島で乗船、一行三百二十人(武士九五、医者八

伊方むかしむかし (4) 参勤交代の巻 宇都宮 正義

「御参勤、御下向御地面御参行之際庄屋町、御休息の間御酒可被下候……」

これは庄屋町家由緒書の中の一節である。

当時伊方浦は宇和島藩にぞくし、人口約二千、村高は歴長年間の四百九拾石から、元禄年間約千五百拾石に増え、さて領主伊達公の参勤交代は海路三時舟を隔つていたがなにしての多い海の陸所です。後にはこれを改めて、伊方藩成城になりました。領主一行が参勤交代で江戸に出るには、宇和島で乗船、一行三百二十人(武士九五、医者八

伊方むかしむかし (4) 参勤交代の巻 宇都宮 正義

「御参勤、御下向御地面御参行之際庄屋町、御休息の間御酒可被下候……」

これは庄屋町家由緒書の中の一節である。

当時伊方浦は宇和島藩にぞくし、人口約二千、村高は歴長年間の四百九拾石から、元禄年間約千五百拾石に増え、さて領主伊達公の参勤交代は海路三時舟を隔つていたがなにしての多い海の陸所です。後にはこれを改めて、伊方藩成城になりました。領主一行が参勤交代で江戸に出るには、宇和島で乗船、一行三百二十人(武士九五、医者八

伊方むかしむかし (4) 参勤交代の巻 宇都宮 正義

「御参勤、御下向御地面御参行之際庄屋町、御休息の間御酒可被下候……」

これは庄屋町家由緒書の中の一節である。

当時伊方浦は宇和島藩にぞくし、人口約二千、村高は歴長年間の四百九拾石から、元禄年間約千五百拾石に増え、さて領主伊達公の参勤交代は海路三時舟を隔つていたがなにしての多い海の陸所です。後にはこれを改めて、伊方藩成城になりました。領主一行が参勤交代で江戸に出るには、宇和島で乗船、一行三百二十人(武士九五、医者八

たばこは 町内で買いましょ

御禮

左記の方々より伊方廣報編集費用として御寄附を戴きました紙上より厚く御礼申し上げます

大牟田市西浜田町三(川永田出身) 元岡友重 殿 一〇〇円
岐阜県加茂郡東白川村中谷(大成出身) 古田一澄 殿 一五〇円